

---

## 第7回 垂水市庁舎等のあり方検討委員会 会議録

---

■日時：令和4年6月28日（火）10：00～11：10

■場所：垂水市役所3階 第一会議室

---

### ■出席者

#### 【垂水市庁舎等のあり方検討委員会】

鯨坂委員・片野田委員・川井田委員・村野委員・谷口委員・嶽釜委員・中村委員・前田委員・後迫委員・山口委員・黒川委員・川畑委員・寺田委員・中馬委員・宮下委員・市渡委員・石堂委員・馬籠委員

（欠席）

川崎委員・大迫委員

#### 【事務局】

副市長

財政課長、同課課長補佐兼契約・財産管理係長、同係技術主査、同係主査

---

### 公開議決

（事務局） 本日はお忙しい中、本委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

会議に先立ちまして、本日は報道機関の皆様がお越しいただいております。

会議の公開については、「垂水市附属機関の会議の公開に関する要領」第2条にて、原則公開するものとしております。ただし同要領第3条の規定では、会議の一部または全部を公開しない場合は、会議の委員の皆様にお諮りすることとなっておりますが、非公開の場合につきましては理由を付す必要があります。

本日の会議を公開してよろしいか、委員長の方お諮りお願いいたします。

（委員長） 事務局から説明がありましており、本日はマスコミの方が来られています。

非公開とする理由はないかと考えますが、本日の会議は公開とすることで皆様よろしいでしょうか。

（委員、了承）

（委員長） それでは了承されたということで、今日の会議は公開で行いたいと思います。よろしくをお願いいたします。

### 1. 開会

（事務局） ありがとうございます。それでは、ただいまから、第7回垂水市庁舎等のあり方検討委員会を開催いたします。

改めまして本日はお忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

はじめに、欠席委員の報告をいたします。本日は事前に川崎委員から欠席のお申し出がございました。また、前田委員におかれましては少し遅れるという連絡がきてお

りまして、以上、1名の欠席という形になりますが、垂水市庁舎等のあり方検討委員会設置要綱第7条第2項により、過半数の皆様のご出席をいただいておりますので、委員会は成立していることをご報告申し上げます。

それでは、これからの会の進行につきましては、鯉坂委員長にお願いいたします。

## 2. 報告

(委員長) それでは、皆様方のご協力いただきながら、進めさせていただきたいと思います。早速ですが、議事に入りたいと思います。

初めに「2. 報告・協議(1) 委員会等の経過について」、事務局の説明をお願いします。

(事務局) それでは「(1) 委員会等の経過について」、報告いたします。

令和4年6月10日開催の市議会特別委員会では、令和4年6月8日開催の本委員会と同様の報告を行い、耐震化事業の流れや補強計画案について案を示させていただきました。また、庁内検討委員会ですが、前回の外部検討委員会以降開催はございませんでした。

(委員長) ありがとうございます。今の説明に対して何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

それではこのレジメに従いまして「2. 報告・協議(2) 耐震補強工法の方向性について」に入りたいと思います。

前回の委員会で設計会社からA案、B案が示されました。

案は示されたばかりだったため、E委員や委員の皆様から「建築の専門家委員の方に、A案、B案の確認をしていただき、今回、説明してほしい」というご要望があり、耐震工事費については、重要な要素になるので、事務局に、何か工夫した形で示してほしいという注文をしたところでございます。

この2案の確認作業ですが事務局にお願いし、建築の専門家委員であるA委員とB委員、そして私とで6月21日にWEBで会議を行いました。

会議は事務局の協力をもらいながら協議を行い、今回お配りしている資料をまとめたところです。

では、お配りしている資料をもとに2つの案の確認作業の報告を行います。

私の説明の後で、A委員、それからB委員には、補足説明があれば、お願いしたいと思います。

資料1をご覧ください。

A案、B案で採用されている耐震工法について、まとめた資料です。

この建物は鉄筋コンクリート造ですので、地震が来た時に耐えるというか、色々補強して耐えるように致します。

基本的に見ていただければわかると思いますが、そこに柱があります。それから梁が天井のところにあると思いますけど、要はこの柱と梁を補強するということになります。ですから、A案、B案で採用されている工法としては、一番左側にSRCブレースが左上にあります。この梁と柱をもう一個外側に造って三角形にすると、要は、壊れにくくなります。ですから三角形にすることによって、地震が来た時に揺れにく

くする考え方が一つの補強の方法です。ここに描いてありますように、この青いものを建物の外側に付けています。詳しいことはそこに描いてありますが、実はいろんな国の基準があり、色々と工法の許可が取られており、その一つの工法が、鉄とコンクリートと一緒に固めるという工法、SRCブレースという工法になります。現時点の単価で、一箇所工事費だけで700万円ぐらいかかると思われます。そのほか細かい特徴とか書いてありますので、この辺り読んでいただければと思います。

大きくいえば、柱の外側にもう一個フレームを付けて、ここに三角形が出て、補強するという概念になります。

その次は枠付鉄骨ブレース工法、Sブレースと書いてありますが、これは鉄骨をこの窓の内側に付ける形になります。だから部屋の中でも施工できます。この梁と柱がありますがその柱に三角形の補強することによって、今ある柱と梁が動かなくなります。つかえ棒を入れることによって、地震がきても動かなくなるという工法が枠付鉄骨ブレース工法と言います。これを内側にすると、雨掛かりが無くなりますので、外側のような、鉄等を巻いたようなものではなくて、鉄は外だと錆びますから、内側からすると割と少し華奢なものでできるというのが、右上のSブレース工法ということになります。これが現時点での単価で450万円くらいになります。

その次は左下にある鉄筋コンクリート耐震壁、RC壁です。レインフォーストコンクリートというのがRCです。鉄筋コンクリートの壁を作ることです。

実は鉄筋コンクリートは、鉄筋が繋がっています。柱も梁もコンクリートで1回打設して、その中に予め鉄筋が挿入されています。鉄筋というのはこんな細い鉄の棒なので、普通は長い方を持つとたわみます。その代わり引っ張るとなかなか強い。コンクリートの方は重さ、つまり圧縮力には耐えられます。ただ逆にコンクリートだけだと、梁が崩れてしまいます。鉄筋コンクリートの梁は、その2つがハイブリットになっていて鉄筋が引っ張り力、コンクリートが圧縮力に耐える構造になっています。左下の図面を見ていただくと、さっきの鉄骨の所にもありましたが、柱と梁に繋げる力を伝えるために、施工アンカーと書いてありますとおり、そのアンカーで繋げるわけです。それによれば鉄筋が元々あるのと同じような引っ張り力を伝えて、1つの壁になります。

新しい建物を鉄筋コンクリート造で造ろうとすると、あらかじめこういったRCの壁が必要です。いくつか必要となることになっていて、それをバランス良く配置して、新しい建物は確認申請を通り、問題がないということになります。例えば、マンションだと隣の住戸と隣の住戸の壁がありますが、それが大体耐震壁になっています。その壁を後から追加するということになります。これは1箇所250万円ぐらいと思われ

ます。その右側にある開口閉塞は、元々窓があったところを塞ぐ形になります。これは安くて60万円ぐらいです。左の耐震壁の方がかなり効果があるわけです。柱と梁と特に全体に力が入るような形になっていて、RC壁というのは連層耐震壁といって、同じところに1階から3階まで入れることによって、さらに耐震的な強度がでます。元々、壁を造ると重くなりますから、下に壁がないと、どこか支えないといけないので、連層耐震壁というのを、同じところに壁を入れるのが非常に効果的な方法です。

私が今おります鹿児島大学の研究学科棟も連層耐震壁を4枚入れて、一切ブレースを入れずに耐震補強をしています。昭和40年ぐらいの建物ですけど、そういった形の補強があり、鹿児島大学もお金がないので、基本的に鉄筋コンクリート耐震壁という方法を使っています。

それから構造スリットについては、A委員に説明をお願いしたいと思います。

(A 委員) 構造スリットの考え方ですが、今、既存で腰壁と垂れ壁があります。腰壁というのが窓下のことで、垂れ壁は窓の上から梁下までをいいます。これが構造にとっては、窓の耐性が小さくなると、構造の柱に悪さをします。柱が腰壁、垂れ壁で拘束されて、柱が短柱になって、地震時にせん断破壊する恐れがある。ですから、せん断破壊するというのが一番怖いことです。それをなるべく無くそうということで、構造的にスリットと言って、幅5cm程度の隙間を設けて、柱の長柱化を図ってせん断破壊を防いで粘り強い柱に改善しようとするやり方になります。ですから、この窓の耐性が小さい、そういう箇所が大体どこでもあります。柱周りで、短柱を無くすることが構造の一番考え方として優れているやり方になります。

(委員長) ありがとうございます。かなり専門的な話になりました。

(A 委員) わからないようでしたら、もう一度説明します。

(委員長) 要は計算して、柱にすごい力がかかるようになるので、それをかからなくするためにスリットを入れて、その柱のせん断で構造材が折れないようにする。そういった効果があるので構造スリットです。それを計算によって、そこに入れた方が良いということがわかるということです。ここにあります開口閉塞よりは安い方法となっています。

開口閉塞の場合、増し打ちと言って、左側の鉄筋コンクリートに近くなるように壁を増し打ちして、左側のRC壁と同じような力を発揮するような形にするという組み合わせもあります。

今回は、耐震補強をお願いしている設計事務所から、このぐらいの工法でやったらどうですかという提案であり、我々もこの建物の状況からみて、妥当ではないかというように考えています。コストですが、後で事務局から説明があると思いますが、現在、ガソリンも20%ぐらい確か上がったと言われています。建築は基本的に作ったものも作るものも全部トラックで運んで作ります。ですからガソリンが上がると、当然作るときの電気代なども上がってくるし、これからは、例えばガソリン価格がドイツでは290円ぐらいらしいですが、今の日本のガソリン代180円がドイツ並みの290円になったら、そのぐらい上がってしまうということがあるのではないかと思います。とりあえず現在の金額としては、このぐらいということで、この資料1はよろしいですか。

次の資料は透視図です。左側がA案、右側がB案で、イメージとしてはこんな感じになりますということです。次のページに平面図を入れていただきました。A案は「RC壁による開口閉塞と鋼板内蔵コンクリートブレースによる外付主体工法」、B案が「RC壁による開口閉塞と鉄骨ブレースを挿入する内付主体工法」になります。それぞれどんなものかという、青い部分がSRCブレースで、Sが鉄骨ブレースで、赤い部分がRC鉄筋コンクリートの壁を作る、短い赤が窓を塞ぐ開口閉塞です。それか

ら、構造スリットが三角形です。それぞれが各階で何箇所あるかもここに記載されています。

我々の方で確認作業をしましたが、A案、B案2案とも安全率 1.25 倍も含めて、新しい耐震基準を満たしているとの説明を聞いて、大丈夫だろうと判断しています。この2つの案の考え方ですが、左側のA案は外付主体工法で、先ほど最初に工法を説明したSRCブレースと耐震壁を組み合わせたもので、B案は内付主体工法ということで、耐震壁と鉄骨ブレースを組み合わせた形になります。

A案の方は1枚目のパース図を見ていただくと、がっちり補強した形で、一般的にも小学校の補強とか、そういったものでよく見られる工法となります。この工法の場合、特に学校なんかの場合は、外付ブレースだけで足りるケースが多いですが、今回の庁舎の場合は、塔屋があつたりしますので小学校の直線的な建物と比べるとL型だったり、増築だったり、複雑な形をしていますので、A案の場合でも一部で建物の中に壁の補強をしたりして基準を満たすということが必要です。

B案の方は、最低限の補強ということを踏まえて、コストを抑える観点から耐震壁をなるべく多用したという形になっていると思います。一般的にみたら、先に構造的に安心感のある大きなすごく強いブレースのプランを作り、次のB案を組み立てていったと思われます。

最終的な補強の場所は平面図にあります。これについて構造計算をして、最後に外部の判定委員会で許可をもらわないといけません。建物というのは一個一個、形が違って、強度も違うので、それを判定委員会にかけて、それでいいですという判断をもらう必要があります。実際には今、設計で言うところを補強するかという基本的な考え方の計算はしていますが、最終的な細かい計算ではありません。それで大体この辺でいけそうということを行っています。実際にはもっと細かい詳細な計算をしていきますので、その時に若干数値がずれる可能性があり、その結果、壁が若干増えたり減ったりとか、壁設置位置がこの壁はこっちの方が良いとか、そういった変更の可能性があるとすることはご承知おきお願いしたいと思います。

基本的には、このA案、B案でいけるだろうと思います。

次のページですが、今のA案、B案について比較をした説明資料になります。最初に補強案の考え方が書いてあります。A案というのは、ここに書いてあるような形で補強します。B案というのは右側の鉄骨ブレースのような形になります。その下に経済性、施工性、利便性・意匠性ということで、コメントを付けています。

まず、経済性ですが、設計会社から補強工法の部分の単価と施工方法が示されています。箇所数は先ほどの平面図に書いてあったと思います。A案のSRCブレースは、外に付けるブレースが30箇所、それからSブレースが1箇所、RC壁が17箇所、開口閉塞が24箇所、構造スリットが4箇所、補強工事全体で2億7,200万円。それから、その下の概算ですが、これは過去の垂水市での実績を基に事務局で推計したものです。これは後程、事務局が説明します。

右側のB案はSブレースが16箇所、それからRC壁が22箇所、開口閉塞が27箇所、構造スリットが8箇所ということで、補強工事全体で1億4,400万円です。

概算は事務局から説明をお願いしたいと思います。

(事務局) それでは耐震化工事の概算につきまして、説明いたします。

一般的に、工事費は土工事、鉄筋工事、コンクリート工事などの積み上げによる、直接工事費に共通仮設費、現場管理費、一般管理費といった経費を加えて、それに消費税を加えて、工事費が算出されます。今回は、前回お示ししました委託先の設計事務所から示された2つの案につきまして、耐震補強の工法の一箇所当たりの単価により耐震補強工法の概算が示されましたことから、これをもとに工事費を推計しております。なお、これまで説明しているとおり、詳細な工事費については、耐震補強計画が策定され実施設計ができませんと実際発注する耐震化の工事費は出ません。今回お示ししますこの概算につきましても、あくまでもこれまでに実施しました市内の公共施設の実績から推測したもので、耐震補強計画、実施設計、社会情勢の変化で変わってきますので、ご承知おきください。

それでは、概算算定のための一定の基準について説明いたします。先ほど工事費は直接工事費、経費、消費税で構成されると説明いたしました。これまで行いました市内の公共施設、小学校7件と市民館の実績から、耐震補強工事と撤去や補修、取替などのその他工事の比率により直接工事費を推測し、現在使われております経費率、消費税をかけて算出いたしました。その他工事の額を推測するための比率設定は、その他工事が何%だったのかというものを示して推計しています。A案につきましては、事例が市民館の事例しかなかったため、市民館の比率34.7%だったことから35%を基準としました。B案については小学校の鉄骨ブレースでの7事例を基に比率が70.6%から105%だったことから、1.5倍の幅がありましたけれども、平均の90%を基準としました。概算の幅につきましては、先ほど言いました比率の幅の1.5倍としております。また、物価上昇を「一般社団法人建設物価調査会の建設資材物価指数(2011年基準)」を基準としておりますが、これの建築部門の2022年5月の前年同月比につきまして、+21.3%だったことから20%を基準としました。経費率については、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事積算基準の経費率を基準とし工期は12か月としました。これらの基準をもとに推計しました概算がA案では、約5億円から6億7000万円、B案では、約3億8000万円から5億5000万円となりました。

ここで簡単にA案を例に説明します。仮に耐震補強工事費が100円だったとします。そうしますと、その他工事費は35%の35円となり、直接工事費は135円となり、その135円の直接工事費に経費、消費税を加えて工事費を推計するということになります。また、最大値につきましては、比率が35%、資材の上昇分20%、幅の1.5倍をかけまして $100円 \times 35\% \times 1.2 \times 1.5$ の63円となり、直接工事費は耐震補強工事費100円 $\times 1.2$ の120円とその他工事費63円の計183円となるということで、これに経費、消費税を加えて工事費を推計いたしました。今回お示したこの概算につきましては、あくまでもこれまでに実施しました市内の公共施設の実績から一定の基準を設定し、推計したもので、耐震補強計画、実施設計、社会情勢の変化で変わってくるということをまたご承知おきください。

(委員長) どうもありがとうございます。この表全体を先に説明させてください。この表の経済性の下に、施工性というのがあります。A案のメリット・デメリットですが、メリ

ットとしては耐震壁や開口閉塞は施工が容易であるとか、デメリットはA案の場合でも中に壁を造るので、B案のデメリットと一緒にですけど、室内作業を行うスペースが必要ということ。騒音、振動、これは工事、全てそうですが騒音や振動が発生するという。A案はこの表の前のページを見ていただくと、A案の場合、工事は外側を使うので工事する足場を作ると駐車スペースが取れなくなります。それから、先程、申し上げたように、柱と梁を補強しますが、この庁舎の特徴的なところというのは、この部分に柱と梁が内側に入っていて、ここでいうと窓が柱から1mぐらい先にあるキャンチレバーという張り出し床と言いますが、バルコニーみたいな出た形のところにこのガラスが付いており、実際この柱をつなぎ補強するのは大変なのです。そういった建物の特徴から言っても、このA案のこのところは、我々専門家から見ると、かなり無理かな、やめた方が良くはないかという気がして、そういった意見が多かったです。その他のデメリットとしては、執務室の中で工事するケースが多くなりますが、その時は作業スペースが必要となるので、若干執務室の移動が必要になります。市の職員の方は少し負担がかかるのかもしれませんが、コストが少し安くなるので、その辺は理解いただけないかなと思います。一般的には工事期間にもよりますが、中の工事、音が出る工事は土日に行うケースが多いです。これは施工会社によりますし、どういう施工があるかによっては変わってきます。最後の利便性・意匠性ですが、A案というのは外から見ても非常にガッチリと補強したという外観になりますので安心感があるのかもしれませんが。デメリットとしては、南側の駐車スペースが少し小さくなる、工事中だけではなく、できてからも小さくなるという問題があります。また、中から見たら外が見えにくくなるか、採光が若干減るとしています。B案のメリットというのは、外観は南側駐車場には影響があまりないです。デメリットはA案と一緒にですけど執務スペースの中にブレースを造って、壁を造るときにスペースの減少があるということとこちらの方も採光が減るとしています。以上、3人で協議した内容をまとめたものがこの資料になります。もしA委員、B委員から補足の説明がありましたら、お願いいたします。

(A 委員) A案でやるか、B案でやるかということですが、メリット・デメリット、工事費を総合的に判断すると、B案で耐震補強をやった方が良くと思っています。これは余計な話ですが、皆さんこの資料をお持ち帰りになったら、説明するのは良いですがコピーをして配布しないでください。現状がこんなに庁舎は危ないという危険をおおるだけなので、そうすると市職員や、ここに用事で来る人にここ危ないのだからもうあそこに行きたくないという現象が生じます。なので、コピーして配布することはやめてください。危険を煽るだけなので、それだけよろしくお願いいたします。

(B 委員) 私の方からは、ほとんど先輩方がおっしゃられているので、そんなにありませんが、私、今日もこの会に車で来ましたが、駐車場がいっぱいで、ちょっと離れた場所に停めさせていただきました。そういうのもあって、建物のパース上は正面からしか絵はありませんが、裏側の方を見ると設備がいっぱいあります。この建物は古いので後から設備が内側の壁には付いているので、もしそこをさわるとすると、また余計な設備の費用が結構かかってしまうのではないかと思いますので、私としてもB案の方がトータルすると良いという気がしています。

- (委員 長) A委員から話がありましたが、補強しないといけないということで、ちょっとした地震が来たら壊れるというわけではありません。建築基準法というのは地震があるたびに、大きい地震が来ているのでどんどん厳しくなってきました。だからこの建物ができたときは、当然計算もしているし、その当時考えられた地震には大丈夫なようにできているのです。この建物はずっと使われており、素晴らしいという意味もありますが、ただ老人なのでちょっと補強しないと今の基準に合わないというだけですので、明日すぐ壊れるというわけではありません。その辺はよろしくお願いします。
- (C 委員) いろいろと説明、ありがとうございました。主婦の目線でお話したいのですが、今私も個人的にB案の方が良いのではないのかと思います。個人的な意見ですが、一つはまず予算、かかる費用というのがこれだけ差があるのだと思いました。コスト的にも非常に抑えられているB案の方が良いと思います。あと一つは、この会議を始めたころと今とでは世の中の情勢はかなり変わっており、皆さんテレビで毎日見ていると思うのですが、ここ1、2年で、ウクライナの戦争の関係ですごくコストが上がってきていると思います。ガソリンも先生がお話したようにすごく値上がりしていて、それに対してのこのコスト、物流もあるし、B委員も良くお分かりになると思いますが、物が入らない、多分、家を一軒建てるにしても、物が入らなくて家一軒の完成がなかなかできないというのが今も起きているので、この工事をする頃も今の世の中の情勢が良くなっているとは思わないです。悪くなってくると思うので、やっぱり急いで、我々ももし決めるのであれば、今日A案か、B案かを早く決めるべきだなと思うのと、今ここで概算の予算が示されていますが、かなりの物価上昇が素人目線でも予想されるので、予算もB案の方が安いことから、私個人の意見としては、B案の方が良いのではないかと考えております。
- (委員 長) ありがとうございます。確かにあの、さきほど話をしましたけども、価格については、今考えているのが上がらざるをえないのではないかと思います。
- (D 委員) A案もB案も執務室の移動が発生するというのですが、大概算の中の先ほどの説明では、執務室の移動に係る費用が入っていないように感じましたが、もし入ってないとなれば、これはどの程度を考えているのでしょうか。
- (委員 長) 事務局から答えをお願いいたします。
- (事務局) 詳細な費用については、これから実施設計を発注しますが、発注した時に、施工業者とどのような形で、どのようなスケジュールで、どこを先にやるかということを経済協議してからになります。今の状況では正直、ここのお示しできるほどの材料がないところでございます。ですが、先ほど説明がありましたように、A案にしても、B案にしても執務室の移動というのは、どちらがどうというわけではなく、両方の工事の施工において発生しますので、大小は色々あるかもしれませんが、施工業者と協議をしながら進めていきたいと思っておりますので、今のところいくらかかる、こっちがいくらかかるというのは非常に難しく、今回はお示しできない状況です。
- (D 委員) ということは、現状では大概算の中には入っていないということですね。
- (事務局) はい、そういうことです。
- (委員 長) 私の個人的な意見としては、これを機に書類を捨てていただいて、デジタル化に一歩近づけていただきたいと思います。デジタル化を総務省ははっきり言っていますか



ら、今、駐車場がないという話ですが、スマホで住民票から始まって全て手続きができるようになると思います。それと昔、インターネットは全部LANケーブルでつないでいましたが、今Wi-Fiになっています。そういった面でもやるチャンスにはなってきたので、昔だとLANケーブルの配線から始まって、結構電気の配線が大変だったのですが、今は逆にオフィスの新しい設計でも基本的にそれは無線でやって、電気のケーブルだけなので、これをチャンスととらえて、市の方に頑張っていたきたいと思います。

(D 委員) 結局これだけの予算がかかるということだと思いますが、今デジタルの話が出ましたけれども、要するにこの工事をして、いつまで使うかということが、単年度で予算を考える基準になるわけです。前回、A委員のお話では、工事をやったら、50年、60年持つだろうというような話がありました。いつそれを決断するかという、このままの建物で良いということ、そこをだれがいつ決めるのかという部分が出てくると思います。それによって単年度の経費が出てくるので、いつまで使うかということが決まらないと、判断をする基準がなかなか難しいと感じているところです。

(委員 長) それについて、昨年ご説明しましたが、これから新しい庁舎の場所を決めて建設すると言っても、こういう公共事業というのは予算の獲得、補助金の話から始まります。そういった皆さんとの協議もあって、やはり10年ぐらいはかかるという話をしたと思います。最短でやはり10年ぐらいはかかる。それに対して、今県からも耐震診断の報告を求められたりしましたけれども、A委員もおっしゃってましたとおり、市民の方も来られるし、市庁舎が先に壊れてしまうと、災害があったときに非常に大きな混乱というか大変なことになりますので、とりあえずまずは補強しましょうということで進めています。まず、補強を決めて進めておいてですね、それから何年使うかということとははっきり議論して決めていくべきではないかと思います。ですからそれについては、これが決まってすぐ事務的にどんどん進めていただきながら、今後この委員会でも当然その話をしていけないといけないと思っています。まずはこの、補強のご了解をいただいて進めないと、10年間、その間、やはり市の職員の方も不安だと思いますので早く進められないかなと考えています。今、おっしゃることは確かに何年間か使うかで、いくらだとかいうのは、ぜひ考えなければならないことだとは思いますが。

(E 委員) 今の耐震に関連しますが、利便性とか、何年使うかということを考え出していけば、正直きりが無くなってしまって、それを考えればなお時間がかかってくるということもあると思います。今、案を示していただきまして、コスト重視で、まずはとにかく早い耐震化をして、安心安全を保っていただいて、さきほど委員長もおっしゃるように、デジタル化に対応した市役所とすべく、これを機会に総合的に、包括的に物を捨てるなどデジタル化に対応する庁舎にするべく準備をしていただければと思います。そしてデジタル化の技術は日進月歩で、どんどん進んでいます。耐震化が完成したころにはまた、今とは違った技術もあるかもしれませんので、その時にはまたデジタル化に対応していただければと思います。専門的な立場でわかりやすく示していただいたということで、やはり費用というか補強工事とか、大概算を見ても、やはりA案とB案を比較すれば、B案がやはり最適なのではないかと思います。というのもやはり

先日も熊本で震度5弱の地震があり、鹿児島県内でも小さな地震が頻発しました。やはり安心安全の確保が第一の条件であるので、今回はB案でいければ良いのかなと思うところです。

(委員長) ありがとうございます。他にありませんか。どうぞ。

(F委員) この事業は、もう少し遅らせられないのかなと思います。今この物価高で特に食料も危機的状況となっています。例えば、道の駅にしてもお客さんが少ない。なぜか。ガソリンが高い。ちょっと入れたら、店舗で50リットルも入れたら1万円からお釣りは少ししかない。そんな全体的に物価が一番高いときでなく、もう少し工賃が落ち着いてから着工をした方が結果安くなるのではないかと思います。あまり急ぐことはないのではないかと思いますので半年、1年ぐらいしたら見通しがでると思うので、それからでもよいのではと私個人は思います。

(委員長) 私も実は65歳を超えたので、そろそろ年金生活です。今、心配でしょうがないのがこのインフレです。ただ、今の世界情勢を見ていると、残念ながら上がっていく方向にあるみたいで、結局安くなるのを待っていると、いつになるかわからなくなります。その間にもし地震が来た時に、垂水市がどうなるかということを考えると、とりあえず最低限の補強だけをやっておいて、それでそこから先どうするかというのを考えることが良いのではと、そういう気がしますがいかがですか。県内のいろんな庁舎を見たとき、補強が終わったり、建替えたりしています。まずは最低限という形でいかがかなと思います。どうでしょうか。

(F委員) 賛成です。

(委員長) よろしいですか。よかったです。

(F委員) 言われていることが、1つも進歩をしていない。70年前と今も。今もエネルギー戦争をやっていますが、70年前も第2次世界大戦もエネルギー戦争でした。1つも進歩していないと感じます。

(委員長) 確かにご指摘とおります。他にご意見ありますか。

(G委員) このA案、B案を見ていると、この経済性に関しても、施工性に関しても、メリット・デメリットに関しても、B案の方が良いと僕は思うのですが、だれが見てもこれB案かなという資料になっています。あえて訊きますけど、多少高くてもA案を選ぶメリット、A案にする最大のメリットというのはあるのですか。

(委員長) 外付工法の1番のメリットは中をいじらなくてすむことです。公共事業でよくある形というのは、例えば小学校の耐震補強を設計事務所が構造設計をしますが、そうすると中の使い方を考えなくて、まず構造的なものだけでこれ入れれば良いと考えるケースが多いです。今回はたまたまこの建物が、南側、特にそういう構造、張り出す構造になっているので、このA案というのはお金がかかるし、やめた方が良いのかなという気がします、ですから他のところでブレース付けても良いのではないかと思います。可能性があるかもしれませんが、今回の大きな方向としては、いろいろご意見いただいたとおり何年間か使うというご意見がありましたが、今、物価が上がっている中でとりあえず最低限という話が出て、最低限で一番安いのはB案ではないかということだと思います。やり方としては、中に迷惑をかけるけれども、安くやるにはこのB案ということなんです。

- (G 委員) あと1点、A案、B案、工期的にどうなのですか。
- (事務局) 工期につきましては、まだ場所も工法も決まっていないので、場所によってまた違うと思います。先ほど言われたとおり、内側の方だと設備とかいろいろありますので、その移動させる期間がでてきますので、何も無い所にする場合と設備がある場合で変わりますので、一概にどっちが長いとかいうのは今の段階では言えないところです。
- (委員長) 私の、個人的な経験からの印象で言うと、音を出す工事は、多分土日にはしかできない。ただ外側の方が、音は出さない工事を平日にできるので、多分、若干、外付の方が短いような気はしています。その辺の差は出てくるかもしれません。
- (D 委員) これは事務局の方にお聞きしたいのですが、前、雨漏りがしていたという話を聞いたような覚えがありますが、あったのでしょうか。それとも、その工事はもう手当てをして終わっているのでしょうか。
- (事務局) 以前から市役所庁舎は雨漏りをしておりました。それで大きい雨漏りにつきましては、大きい方はですね、防水をしましてマットを置きましたけれども、やっぱり一部ですね、今度は別の場所が雨漏りをしている状況がございます。今はそれについてまた検討しながら、またどうしていくかということ、考えていきたいと思っています。
- (D 委員) 私もその噂を聞いて、3階のここへ来るときに、バケツが置いてあったような記憶があります。今、回答がありましたけれども、結局この工事をするにあたって、それも鉄筋の場合の雨漏りはなかなか複雑だと思います。
- (委員長) 良くないですね。
- (D 委員) その工事を含めてやるなら、構造的には良くて雨漏りがするというのは、これはいただけない話ですから。そこも含めた方が良いのではないのでしょうか。
- (委員長) 通常の維持管理の工事だと思うのですが、それを一緒にやった方が良いということは当然そうでしょう。雨漏りが建物の耐久性に良くないので、ぜひこれはご検討ください。状況をみながらお願いいたします。
- (H 委員) 皆さんの話を聞いて、やはりB案の方が優秀だと思います。資材高騰もどんどん進む中で、庁舎の職員の方とか来られる方の安全性について話し合っ、できるだけ早く決めて、早く着工していただけるようよろしくお願いします。
- (委員長) 今のところB案に対して反対のご意見がありませんが、今回の委員会で、この委員会としてはB案で補強を進めてほしいと要望をしてもよろしいですか。実はもう1回位議論しても良いかなと思いましたが、早い方が良いと思いますので。
- (I 委員) それは早い方が良い。
- (委員長) 早い方が良いですね。この委員会では、B案で補強工事を要望するという事で進めたいと思いますが、B案で異議はないのでしょうか。
- (委員、了承)
- (委員長) それでは本検討委員会の結論については「垂水市庁舎等のあり方検討委員会で議論を重ねた結果、今後の垂水市庁舎の耐震補強については、B案のRC壁による開口閉塞と鉄骨ブレースを挿入する内付主体の工法が望ましいものとする」として、前回は意見書という形でお出ししていますが、今回も市長に対して意見書という形で、私の方で取りまとめさせていただいて、提出ということでもよろしいでしょうか。それか

ら早い方が良いと思いますので、建設費もどんどん上がっていますし、なるべく早く実施設計に入った方が、設計の方も良い設計ができますので、ぜひそういう形で進めさせていただきますが、よろしいですか。

(委員、了承)

(委員長) ありがとうございます。意見書を作りまして、事務局に意見書の写しを委員に送っていただくようお願いいたします。今回の結論として、B案ということで意見書を提出することにしたいと思います。今日はありがとうございました。引き続き、垂水市の庁舎のあり方の方向性について議論を重ねていきたいと思いますので、ぜひ今後ともよろしくようお願いいたします。

以上でよろしいでしょうか、事務局から何かございませんでしょうか。それでは事務局からお願いいたします。

### 3. 閉会

(事務局) 本日はありがとうございました。今回、委員会の方で意見書を取りまとめていただけるということでしたので、そういった作業を進めさせていただきたいと思います。委員長におきましてはよろしくようお願いいたします。また、次回の委員会の開催については、改めてご連絡します。引き続き、よろしくお願ひしたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

(委員長) どうもありがとうございました。